


青少年の体験活動の重要性を普及する事業

事業名	とかしきジュニアライフセービング キャンプ	
実施期間	平成23年8月20日(土)～22日(月)	
担当者	企画指導専門職 北岡 哲治	

I 事業コンセプト

日本ライフセービング協会沖縄支部と連携し、渡嘉敷島の豊かな自然の中で、本所ならではの独自性を生かし、小さいうちから海の安全について意識をもたせつつ、子どもたちのあふれる笑顔と成長が見えるような、体験活動の重要性を普及する事業とする。

II 事業の概要

1 事業の目的

異年齢の子どもたちが、渡嘉敷島の豊かな自然の中で、自然体験や社会体験などの体験活動をとおして、海の安全について小さいうちから意識を持たせ、コミュニケーション能力や規範意識を高める。

2 参加対象及び募集人員

小学生および中学生 50名

(原則として小学校3年生以上、その他は保護者が同伴すれば参加可能)

3 参加状況 58名(スタッフ9名は除く)

小学生33名、中学生4名、未就学児7名、保護者(大人)14名。

4 実施上の留意事項

(1) 子ども5人に対して少なくとも大人が1人以上で、指導できるスタッフの体制を整え、海での活動が安全にできるよう最大限

の配慮を行う。

(2) 海の活動のみならず、テント設営、野外炊飯、星空観察、フォトフレーム作り等、多彩なプログラムを準備する。

5 活動の様子

1日目<8月20日(土)>

(1) テント設営

2泊3日の生活拠点となるテント設営



《テント設営オリエンテーション》



《杭をしっかり打ちましょう》

(2) 海の散歩

初日は、夕刻までのわずかな時間ですが、海カメを見つけにいくところ。



《スノーケリングでの海のお散歩》



《小さい子どもは、水遊びから！！》



《初日の夕食はバーベキュー》

2日目<8月21日(日)>

海の散歩の舞台



《マリンプルーの渡嘉敷の青い海》



《安全に活動できますように！いざ出発！！》



《ニッパーボードで海のお散歩》

(3) 思い出を残そう (フォトフレーム作り)



《渡嘉敷の海で拾ったサンゴや貝殻で、オリジナルのフォトフレーム作り》

(4) 野外炊飯 (火おこし→調理まで)
(キャンプでは定番のカレー作り)



《火おこし体験》



《おいしいカレーができますように！！》

3日目<8月22日(月)>

- ・最終日の朝、まずはラジオ体操から



《朝日を浴びながらのラジオ体操》

- ・元気の源は、朝食から。



《朝食は、パンと牛乳、ウインナー、バナナとゆで卵の軽食メニュー》

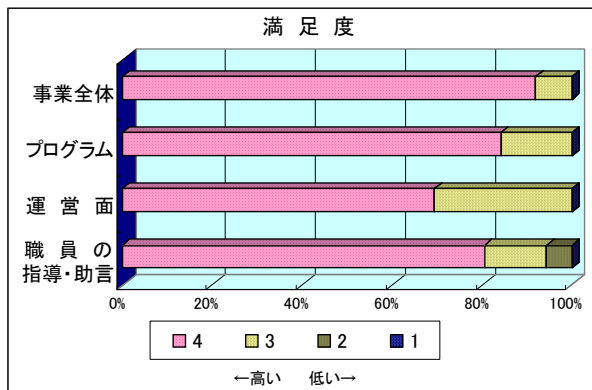
- ・海ガメとの遭遇



《すぐ近くに海ガメ発見》

6 アンケートの結果

(1) 満足度



(2) 参加者の声

《良かった点》

- 海がきれいだった。
- 友達やスタッフとお友達になれたから。
- 小さい子や他のクラブの子と仲良くなれた。
- 海を通しての交流が楽しかった。
- シュノーケリングが楽しかった。テントでの生活が楽しかった。
- 今日海には行って深いところまで行きました。最初はこわかったけれど、だんだん楽しくなってきました。また来年も行けたらいいな。
- 今日海には行って、ウミガメを初めて見られてよかったです。また見たいです。
- 貝殻集めたのが楽しかった。
- フォトフレームは楽しかった。
- 内容がかなり充実していて楽しかった。
- カレー作りが楽しかったし、おいしかった。

《改善すべき点》

- ▲もっと海に入りたいかった。
- ▲テントが暑かった。

Ⅲ 成果と課題

1 事業の成果

- (1) 日本ライフセービング協会沖縄支部のスタッフや県内の大学生ライフセーバーが多数参加し、未就学児から低学年、中学年、高学年そして中学生まで、年齢や子

ども達の実態に応じ、レベルに応じ指導ができた。

- (2) 海の散歩では海ガメに会い、星空観察では土星の外の輪を望遠鏡で見つけ、実際に自分の目で見ることができ、感動を深めた。
- (3) 海での活動のみならず、星座観察、フォトフレーム作成、火おこし体験、カレー作り等を経験し、テントで2泊することで、非日常の生活を味わうことが出来た。

2 今後の課題

- (1) 日本ライフセービング協会沖縄支部とのさらなる連携強化が必要不可欠であり、次年度にむけては、日程の組み方や募集方法、プログラム内容の細かな打ち合わせ等を入念に行うことの必要性を感じた。
- (2) 子ども達への海の安全の早期教育プログラムとして、本所独自の事業として展開できるよう、プログラムを提供する必要がある。

Ⅳ おわりに

渡嘉敷島の豊かな自然の中での体験活動とおして、海の安全について小さいうちから意識を持たせ、諸活動を楽しみながら充実した3日間であった。また、天気にも恵まれて、プログラムもほぼ予定どおりに実施することができた。スタッフも10代の大学生から幅広い年齢層(40代迄)のライフセイバーで構成され、その中には医師や看護師も参加しての万全の安全管理体制であった。おかげで、ケガや病気もなく、参加した子どもたちは全員元気で日程を消化することができ、楽しい夏休みの思い出になるキャンプとなった。

また、県内のジュニアのみならず、全国展開となるよう事業のあり方を検討し、よりよいプログラムが提供出来るよう、今後とも日本ライフセービング協会沖縄支部と連携を深めながら継続して開催していきたい。